

令和2年度前期 オンライン授業に関する学生アンケート報告書

本学でおこなわれているオンラインでの授業全般について、学生の受講状況や意識を確認し、オンライン授業運営の改善のために活用することを目的に、次の期間・方法で実施した。

実施期間：令和2年7月17日（金）～8月10日（月）

実施方法：基礎ゼミ・専門ゼミのTeams上にアンケートリンクを掲示（投稿）し学生に回答してもらう。

(1) 回答者の属性

回答は全体で530件あった。1～4年生で偏ることなく回答を得られた。

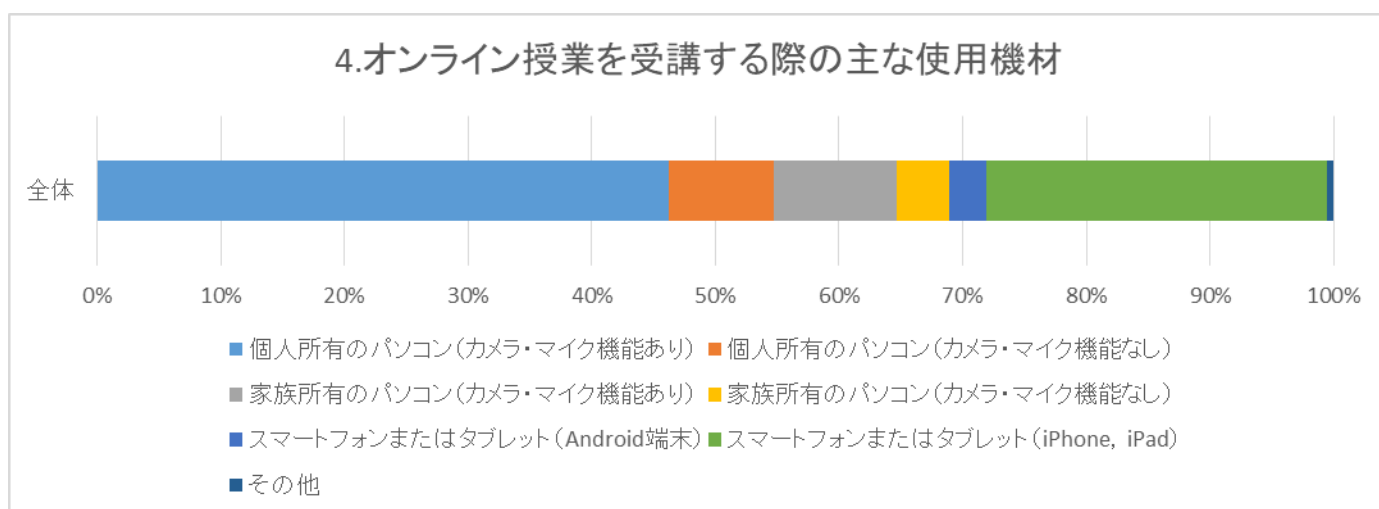
	経済学科	経営学科	未所属	計	(参考) 実家	一人暮らし	その他(下宿, 寮など)
1年生	0	0	167	167	154	13	0
2年生	88	58	0	146	134	12	0
3年生	75	47	0	122	110	11	1
4年生	64	31	0	95	84	10	1
計	227	136	167	530	482	46	2

(2) 学生の受講環境

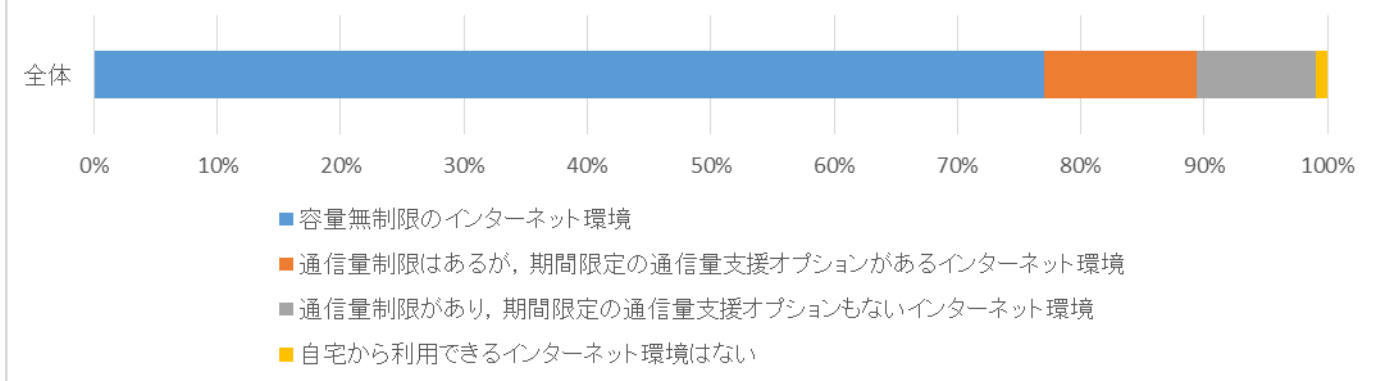
使用機材について、全体の46%は個人所有のパソコン（カメラ・マイク機能あり）を利用している。また全体の30%強はスマートフォン・タブレットを利用している。なお、全体の12.5%はカメラ・マイク機能なしのパソコン（個人所有・家族所有）を利用している。

通信環境について、全体の77%は容量無制限のインターネット環境を利用している。全体の10%は通信量制限がある環境、全体の1%はインターネット環境がない状況である。

4. オンライン授業を受講する際の主な使用機材



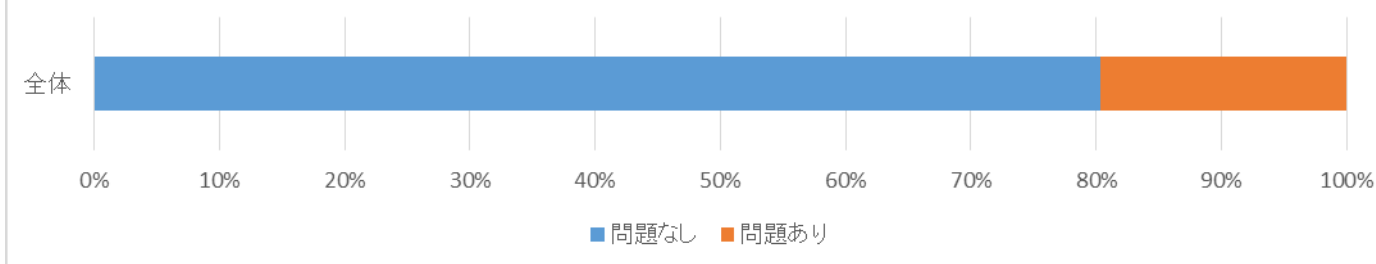
5.自宅のインターネット環境



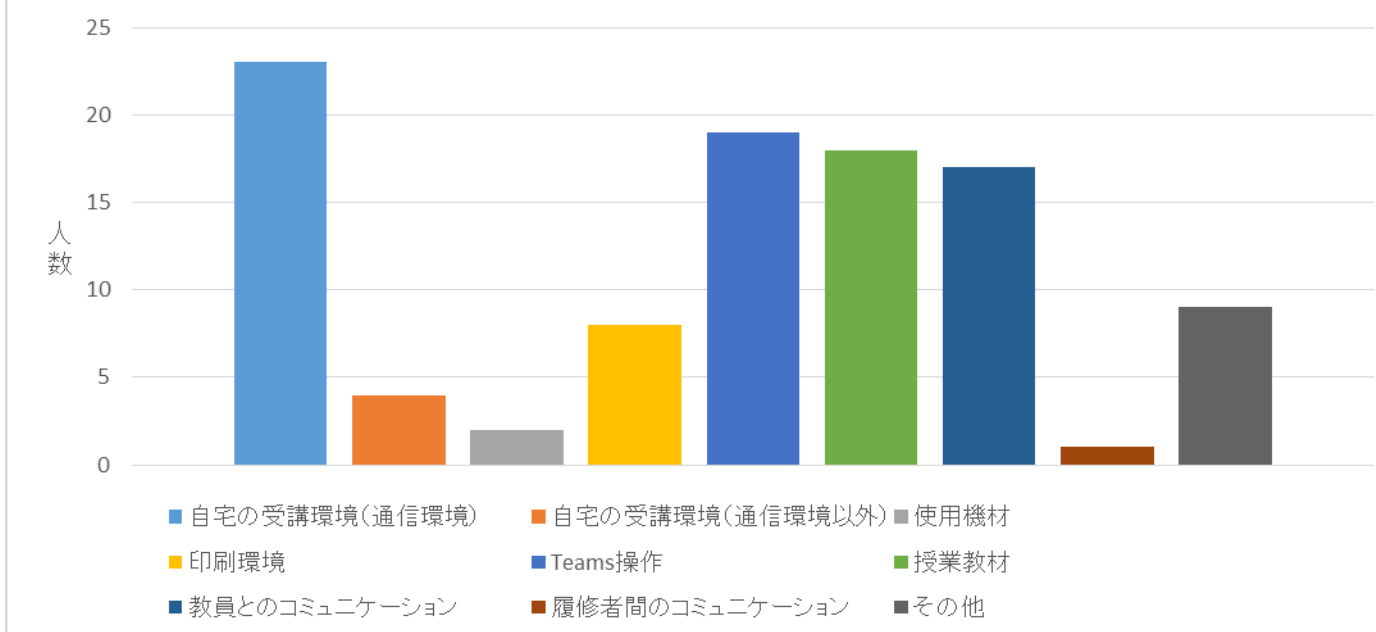
(3) オンライン授業に関する学生の受講状況

本学のオンライン授業について、全体の80%は「問題なし」と、残り20%は「問題あり」と回答している。「問題あり」と回答する学生がもっとも問題であると感じているのは、「自宅の受講環境（通信環境）」（23人）、「Teams操作」（19人）、「授業教材」（18人）、「教員とのコミュニケーション」（17人）の順に高い。また資料の印刷を前提にした授業では自宅の「印刷環境」（8人）を問題にした学生もいた。

6.現時点までのオンライン授業の全体的な受講状況



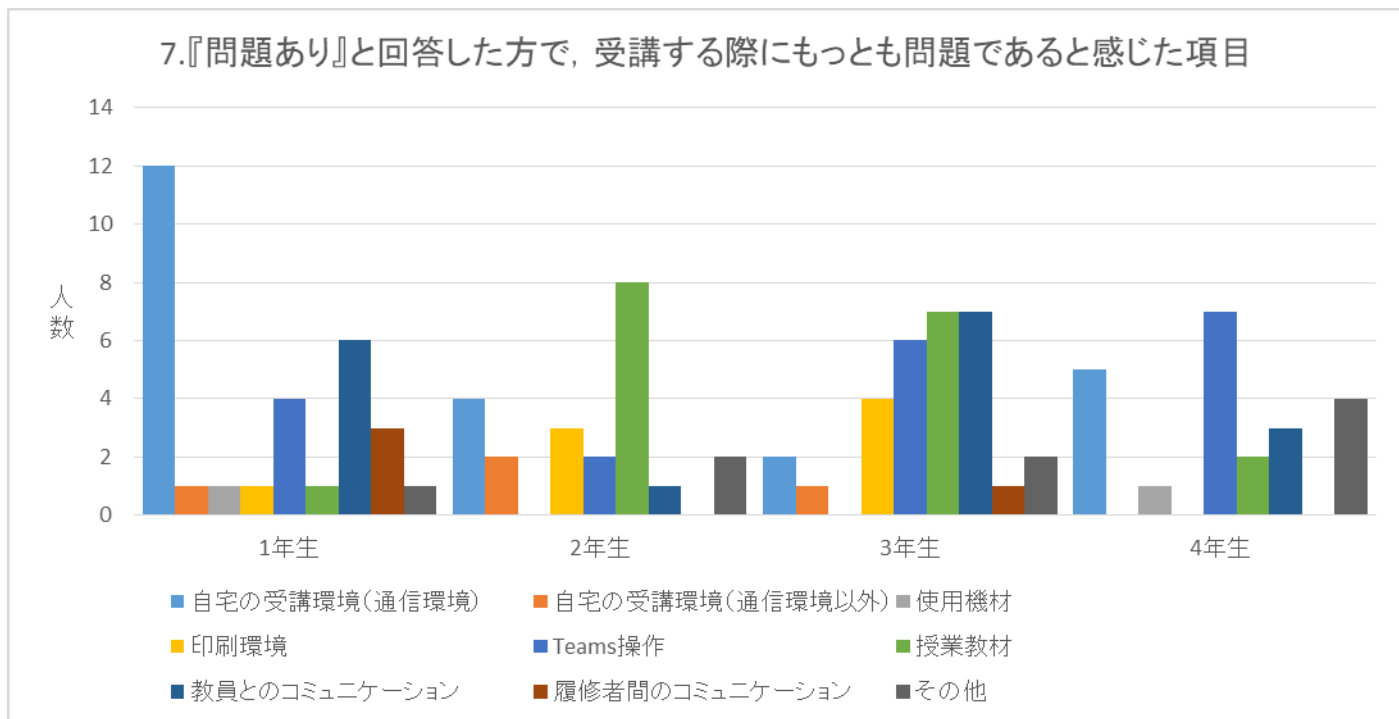
7.『問題あり』と回答した学生が、受講する際にもっとも問題であると感じた項目



参考資料①に学年別の受講状況をまとめてある。「問題あり」と回答する学生がもっとも問題とする要因を学年別に見てみると、1年生では、「自宅の受講環境（通信環境）」がもっとも多く、次いで「教員

とのコミュニケーション」となっている。2年生、3年生、4年生では、通信環境より、「Teams 操作」や「授業教材」を問題と考える人が多い。

(参考資料①より「学年別：『問題あり』と回答する学生が感じる要素」)

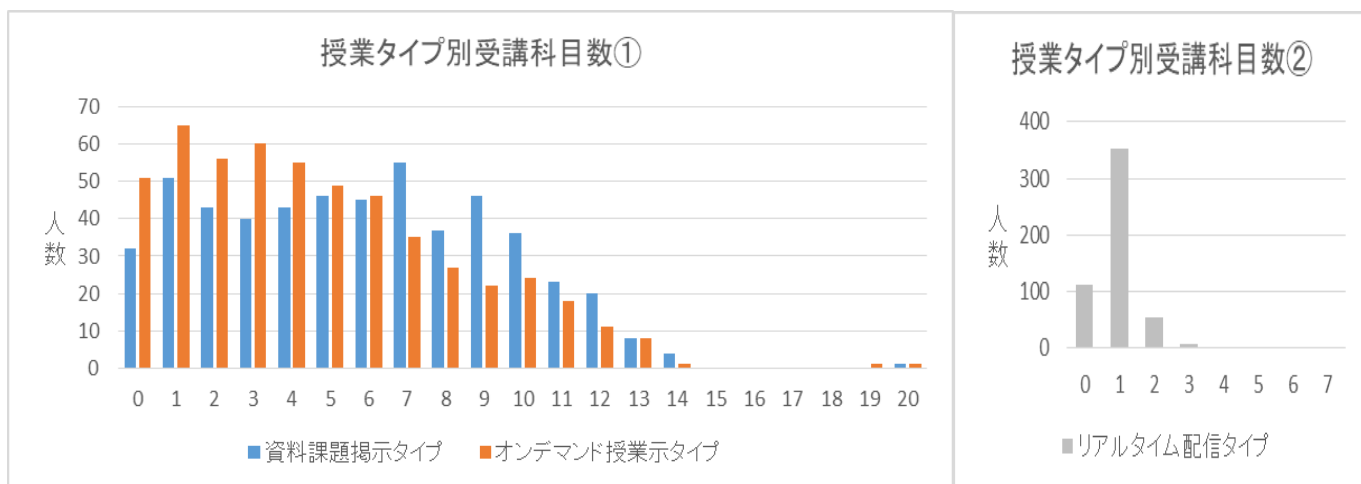


(4) 授業タイプ別の学生の意識・満足度

学生に3つの授業タイプ(資料課題提示タイプ、オンデマンド授業タイプ、リアルタイム配信タイプ)をそれぞれ何科目受講しているのかを確認した。(横軸は科目数)

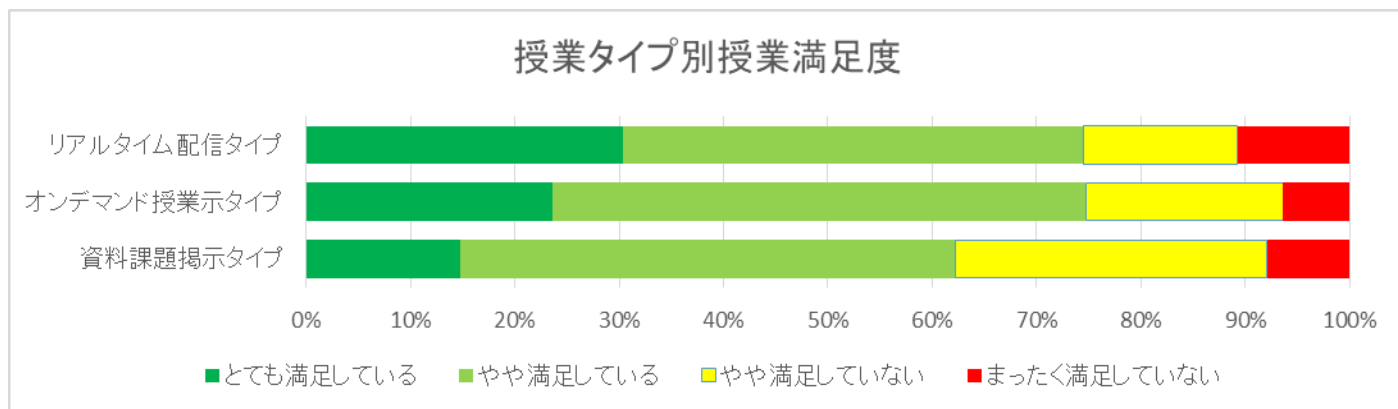
グラフから資料課題提示タイプとオンデマンド授業タイプの受講人数が多いことがわかる。また授業タイプ別に学生1人あたりの平均受講科目数をとると、「資料課題提示タイプ」を6科目受講し、「オンデマンド授業タイプ」を5科目程度受講していることがわかる。本学では原則ゼミナールにのみ「リアルタイム配信タイプ」を認めていたため、このタイプは学生1人あたり1科目受講である。

授業タイプ別で、不満(やや満足していない、まったく満足していない)の割合をみると、「オンデマンド授業タイプ」と「リアルタイム配信タイプ」では全体の25%(人数にして135人)、「資料課題提示タイプ」では全体の38%(人数にして200人)であった。



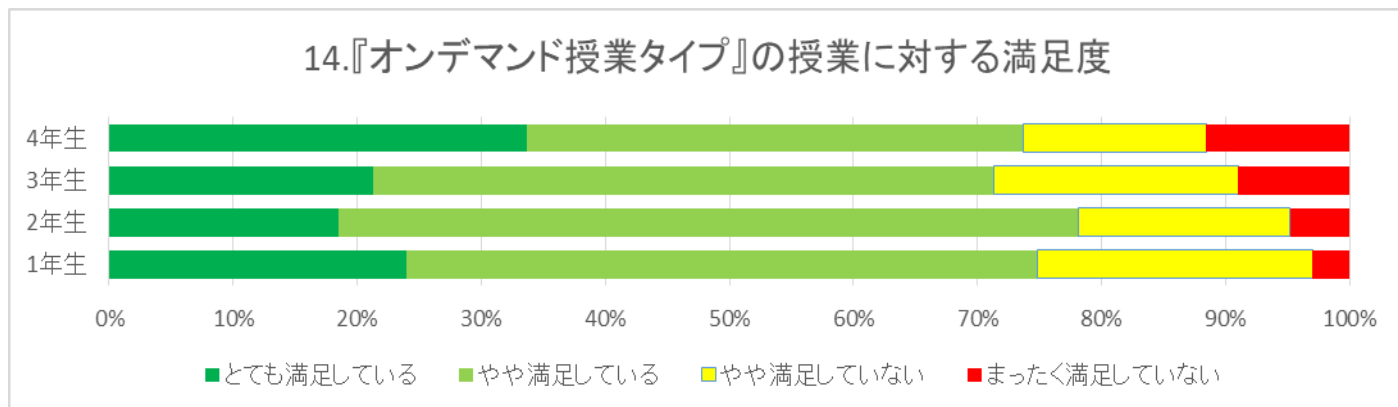
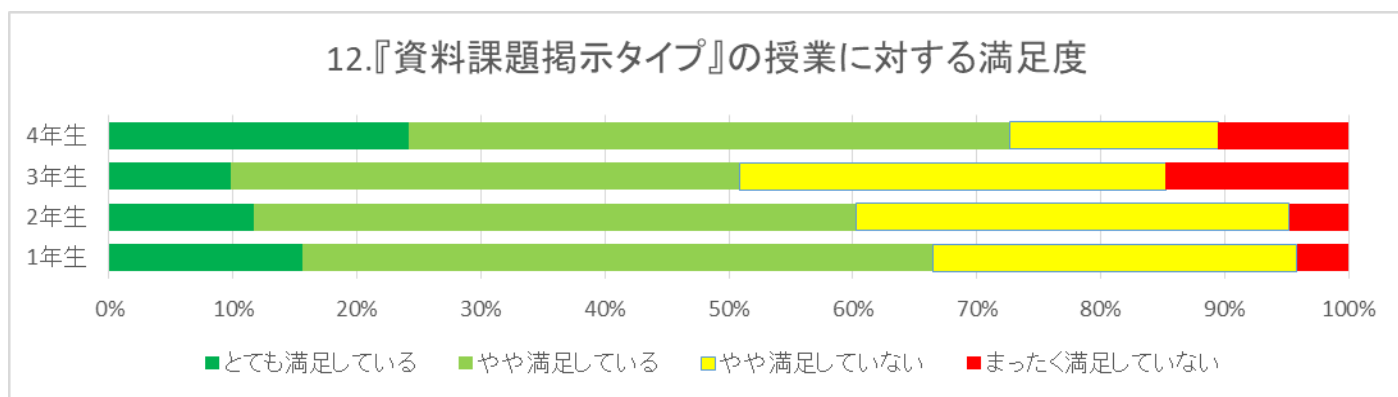
授業タイプ別：学生1人あたりの平均受講科目数

	資料課題提示タイプ	オンデマンド授業タイプ	リアルタイム配信タイプ
1年生	6.4	5.2	1.3
2年生	6.6	5.3	1.0
3年生	6.1	5.4	1.2
4年生	3.0	1.8	0.7
全体	5.8	4.7	1.1

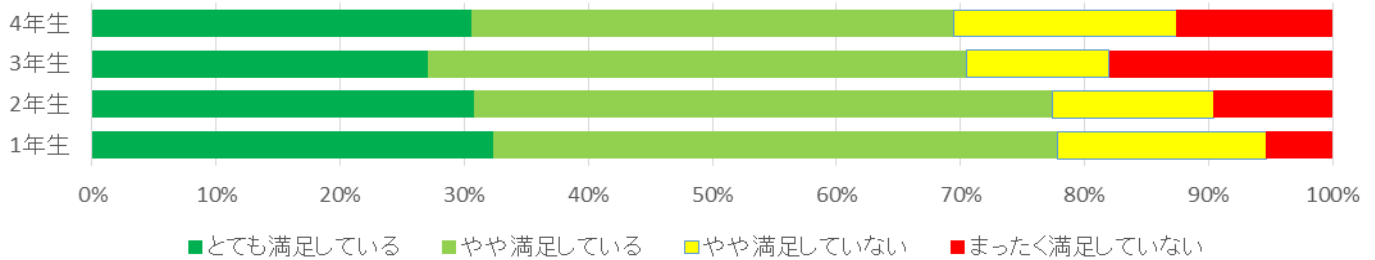


参考資料①では授業タイプ別の満足度を学年ごとに示している。授業に対する不満（やや満足していない、まったく満足していない）について、「オンデマンド授業タイプ」と「リアルタイム配信タイプ」では学年間の差はあまりないが、「資料課題提示タイプ」では3年生（約50%が不満）、2年生（約40%が不満）の不満が大きいことがわかる。

(参考資料①より「学年別：各授業タイプの満足度割合」)



16.『リアルタイム配信タイプ』の授業に対する満足度



参考資料②には授業タイプ別の満足度の理由（記述内容）をすべて掲載している。「資料課題提示タイプ」では、不満の理由として、「課題の分量の多さ」を挙げているものが目立つ。1科目あたりの課題の分量は過大となっていない場合でも、同タイプの科目履修が多いことで、課題にかけなければならない時間が多くなることを訴える記述もある。「オンデマンド授業タイプ」と「リアルタイム配信タイプ」では、不満の理由として、音声途切れるなどの「通信トラブル」や動画等の教材がうまく機能しない等の「授業教材の問題」を挙げるものが多い。

◎考察：受講上の問題別：授業タイプ別の満足度

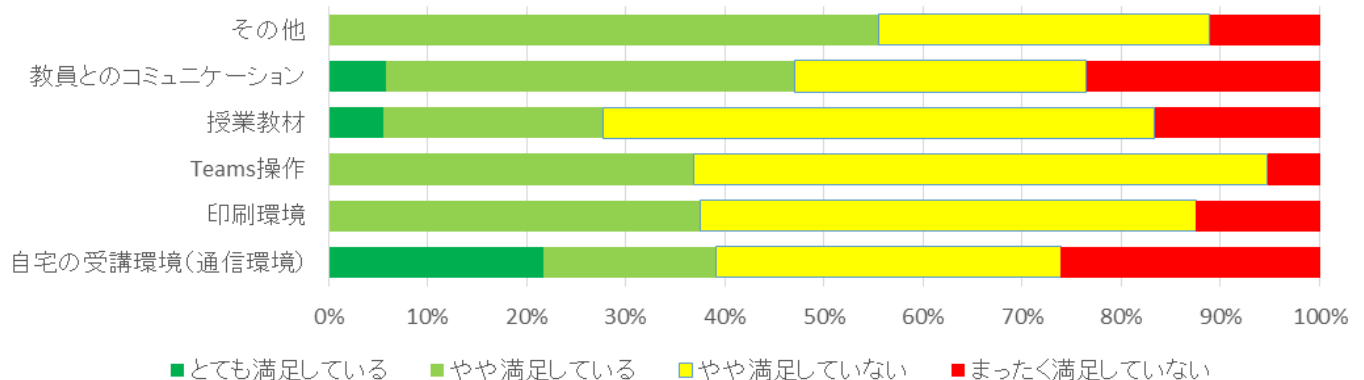
オンライン授業の受講状況を「問題あり」と回答した学生（104人、回答者全体の約20%）には、受講上の問題要因を挙げてもらっている。その問題となる要因と授業タイプの満足度のクロス集計をとることで、各授業タイプにおける学生の不満要因を明らかにしていく。ただし、データ数が少ないため、比較的回答数がある「自宅の受講環境（通信環境）」、「Teams操作」、「授業教材」、「教員とのコミュニケーション」、さらに「印刷環境」と「その他」を加えた6項目にしぼって評価する。

資料課題提示タイプでは、その他を除く5項目を「問題あり」の要因として回答した学生の大半が不満を感じている（「やや満足していない」、「まったく満足していない」の合計が50%を越えている）。個別に見ると、「問題あり」の要因として、「授業教材」を挙げた学生の70%以上が不満を持っており、また「自宅の受講環境（通信環境）」、「印刷環境」、「Teams操作」を挙げた学生の60%以上が不満を持っている。

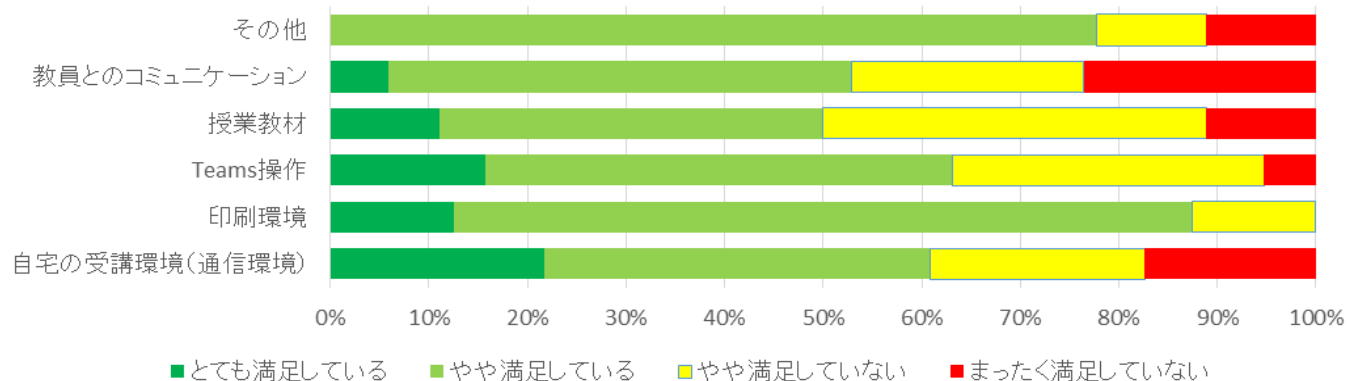
オンライン授業タイプでは、「問題あり」の要因として「授業教材」を挙げた学生の50%、「教員とのコミュニケーション」を挙げた学生の47%が不満を持っている。

リアルタイム配信タイプでは、「問題あり」の要因として「Teams操作」を挙げた学生の58%が不満を持っている。

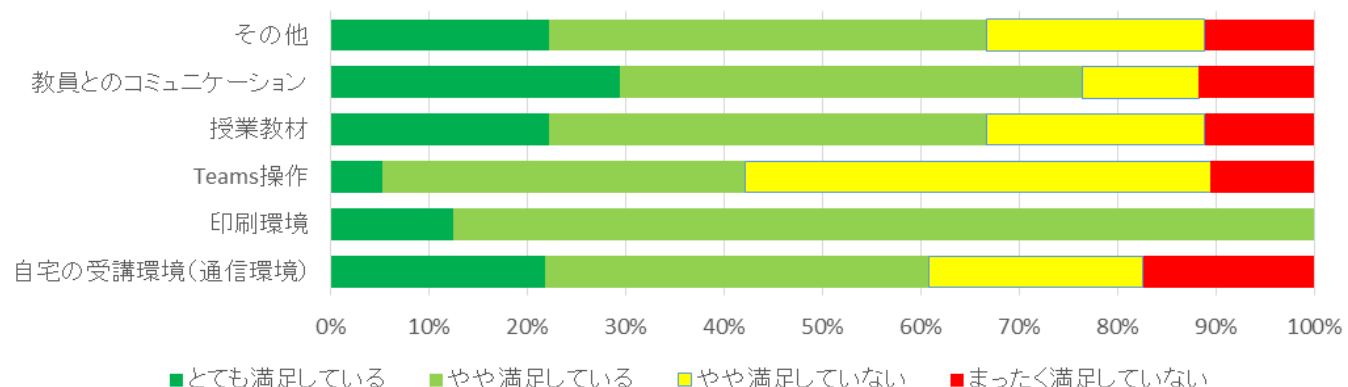
資料課題提示タイプ(受講上の問題別比率)



オンデマンド授業タイプ(受講上の問題別比率)



リアルタイム配信タイプ(受講上の問題別比率)



(5) まとめ

学生アンケート集計結果の考察をもとに、オンライン授業における提言をまとめておく。

- ・全般的に「自宅の受講環境（通信環境）」に配慮した授業運営、授業教材の提供に努める。
- ・本学の学生は資料課題掲示タイプの授業受講数が多いため、1科目あたりの「課題の適正な分量」に配慮する必要がある。
- ・オンデマンド授業タイプについては、参考資料②や授業評価アンケートの学生コメントから授業教材についての不満（音声途切れる、スライドショーの操作しにくさ、ダウンロードが重い等）を丁寧にくみ取り、授業教材の改善に取り組む必要がある。
- ・リアルタイム配信タイプについては、学生の通信環境を十分に考慮することと、Teams や他の会議ツールなどアプリの操作性に学生が慣れることが必要となる。通信環境の良い学生や、アプリの操作に不慣れな学生にきちんとケアする体制を整えるべきである。

以上